

## 平成28年度サステナブル建築物等先導事業(木造先導型)補正・木造実験棟 採択プロジェクト一覧

No.	プロジェクト名称	建設地	提案者 (建築主等)	用途	延床面積	階数	補助 限度 額合計 (千円)	講 評
1	CLTモデル実証棟 「東北大学都市・建築学専 攻セミナールーム」	宮城県 仙台市	宮城県CLT等 普及推進協議会 会長 齋藤 司	実験棟 (セミナー ルーム)	85㎡	1	30,000	東北大学キャンパス内にCLTモデル施設としてセミナールームを新設するプロジェクト。 球体をイメージした外観で、材料供給、設計、生産、施工まで県内の業者・団体が実施する計画で、大学の教育・研究に加えて、協議会も講習会等に利用するとともに広報活動の拠点となる。 宮城県CLT等普及推進協議会の事業主体となり県内の関係者が一体となって取り組むことで、県産スギ材の県内利用サイクルに資するCLT部材の生産システムの構築が期待できるほか、格子梁による大スパンやCLTパネル同士の嵌合式接合による高強度・高剛性接合形式等、CLTの特性を活用した新構造システムを開発し、それらの施工精度や構造性能を検証することとしており、CLTを用いた新たな工法の提案として先進性が期待できる。 また、大学、協議会による活用が計画されていることから、広く普及啓発に資するものと期待できる。
2	CLTの木部材特性を活かしたユニット化による平屋建て中規模木造建築(倉庫)凡用モデルの実証実験	新潟県 新潟市	大新合板工業 株式会社 代表取締役 平野 良昌	倉庫 (実験棟)	300㎡	1	30,000	CLTの高い強度特性を活かし規模変化に対応する非住宅中規模木造建築の汎用モデルを提案するプロジェクト。 水平力を負担するCLTユニットの間に鉛直力のみを負担する軸組壁ユニットを配置した、CLT部材の特性を活かした経済的な倉庫の汎用モデルの計画となっており、CLTパネル、軸組壁パネル、屋根トラスは工場組立て現場作業を効率化し、工事費を抑え工期を短縮する提案としている。 CLTを耐力壁及び耐風梁として利用しつつ、材料や工法、生産システムを工夫して整備コストを低減することとしており、敷地が積雪地であることから積雪による荷重変形特性の検証を実施し、あわせて大地震時の強度特性の検証、大空間の音環境改善の検証を実施する。 CLTの特性を活かした新しい汎用モデルとして期待できる。
3	CLT外部現わし利用技術検証プロジェクト	山梨県 南都留郡 山中湖村	一般社団法人 木のいえ一番 振興協会 代表理事 二木 浩三	専用住宅 (実験棟)	48.6㎡	2	21,000	CLTを四週外部現わしで用いた小型実験棟を建設し、あらゆる利用に必要な技術の検証を行うプロジェクト。 CLTのあらゆる利用を前提とした基礎脚部等接合金物の隠蔽型おさまりの提案と効果検証、及び、接合仕様の工夫による施工の合理化や、あらゆる部表面のメンテナンスコストの低減等を図る提案である。 あわせて、竣工後にCLT外部現わしの経年変化の検証、およびCLT内部現わしによる居住性に関する体感の検証、温熱環境の検証を実施する。 これらにより、CLTの「現わし」利用の促進や劣化対策の仕様検討に資するものと期待できる。
4	サステナブル木造実験棟新築工事	静岡県 浜松市	日本エコシステム 株式会社 代表取締役 松島 穰	事務所	111.93㎡	1	30,000	GIR接合法による『CLT小規模オフィス』において施工性と温熱性能の検証を行うプロジェクト。 CLTを現わしとするため隠蔽型としたGIR(グルーインロッド)接合を取り入れたCLTパネル工法実証棟を建設し、同接合法と告示仕様の金物接合との比較検証、及び、金物部分の熱橋の状況を把握するため接合部周辺の温湿度変化の測定を行う提案である。 オープンな工法であるGIR接合による建築物にCLTを用いた際の懸案事項を検証することにより、CLTの一層の普及に資するものと期待できる。
5	小規模オフィスにおけるCLTプロトタイプの実証と普及啓発	高知県 安芸群 馬路村	馬路村森林組合 代表理事組合長 小松 博	事務所 (実験棟)	122.00㎡	2	30,000	森林組合の事務所建物の建替にあたりCLT利用のモデル建築として整備するプロジェクト。 CLTを用い、地場産木材や地場サプライ建材を活用した事務所建築、小規模オフィスのプロトタイプを志向している。 2層通しのCLT耐力壁による構造モデル化を計画しており、これが実現すると、こうした用途の建築物において、告示から外れたCLTの新しい使い方の開発、普及が期待できる。 また、CLTを浮床とした工法についての遮音性能の測定や温熱性能測定の提案については、既に専門機関と協力体制が整っており、有意義な結果が期待できる。また、同県内に複数の既存CLT建築物が存することからそれらとの比較検証も可能であり、実験・実証の成果が期待できる。